

市民と行政が共に力を合わせて実現をめざします!

6つのめざすまちの姿

[1] 共に創り、未来につなぐまち



都市経営

[2] 住み続けたい、安全・快適な暮らしがあるまち



安全・都市基盤

[3] 福祉が充実し、安心して暮らせるまち



健康・福祉

[4] 子どもの生きる力が育つまち



子ども・教育

[5] 豊かで美しい環境を育むまち



環境

[6] 宝塚らしい“にぎわい”と文化芸術があふれる、創造性豊かなまち



観光・産業・文化

SDGs × 宝塚市

宝塚市ではSDGs(持続可能な開発目標)の視点を意識しながら総合計画を推進します。

※SDGsとは、平成27(2015)年に国連サミットで採択された国際目標のことで、誰1人取り残さない社会をつくるための17のゴールなどが定められています。

17のゴール▶



「第6次宝塚市総合計画」をスタート

ID 1026733

今後10年間の市民と行政によるまちづくりの方向性を示す「第6次宝塚市総合計画」を令和3(2021)年度からスタートさせました。人口減少や少子高齢化などにより、今後さまざまな問題を抱えることが予測されます。このような中であっても、本市に関わるすべての人が幸せと感じられ、安心な毎日を過ごすことができるよう本計画に沿ってまちづくりを進めていきます。

政策推進課 ☎77・2001 FAX72・1419

スローガン

わたしの舞台は たからづか

スローガンに込められた3つの想い



まちづくりの視点

スローガンに込められた3つの想いの実現に向けて、3つの重要なまちづくりの視点を決めました

- 視点1 活動・活躍できる場があるまちづくり**
 - やりたいことに取り組める環境づくり
 - 人のつながりづくり
- 視点2 あらゆる人の暮らしを支え、誰もが幸せに住み続けられるまちづくり**
 - すべての人の人権尊重と自分らしくいきいきと安心して住み続けられるまちづくり
 - 「お互いさま」があふれるまちづくり
- 視点3 活力を創出し、将来を見据えた持続可能なまちづくり**
 - 宝塚らしい魅力を備えたまちのにぎわいの創出
 - 特に子育て世代が住んでみたい、住み続けたいと思えるまちづくり
 - 市民と行政が共に力を発揮する持続可能なまちづくり

INTERVIEW



コミュニティ西山
副会長 大崎 裕子 さん
会長 久保田 洋一 さん

情報共有の密と信頼関係が
よりよいまちづくりにつながる

まちづくり協議会では、日常的な情報ができるだけ多く収集し、市と共有するようしています。日頃から意見交換を行う中で、課題解決につながった事例もあります。お互いが信頼し合うことが重要だと感じました。10年後にめざすまちの姿は一人ひとり異なると思いますが、行政・住民・地域が情報を共有して、お互いを尊重し、それぞれができることをしていくことが大切だと考えています。さまざまな立場の人が協力し合って、宝塚市のためにこれからも周りに目を向けて、地域活動を続けていきたいです。

「地域ごとのまちづくり計画」の見直し

市内に20あるまちづくり協議会では、「地域ごとのまちづくり計画」の見直しに取り組みました。見直しにあたっては、会議を行い、丁寧な話し合いを重ねてきました。また、広く地域の人の声を聴くために、アンケートの実施や意見交換会など工夫をしながら見直しを進めてきました。



まちづくり協議会の情報共有会議の様子

総合計画ってどんな計画？

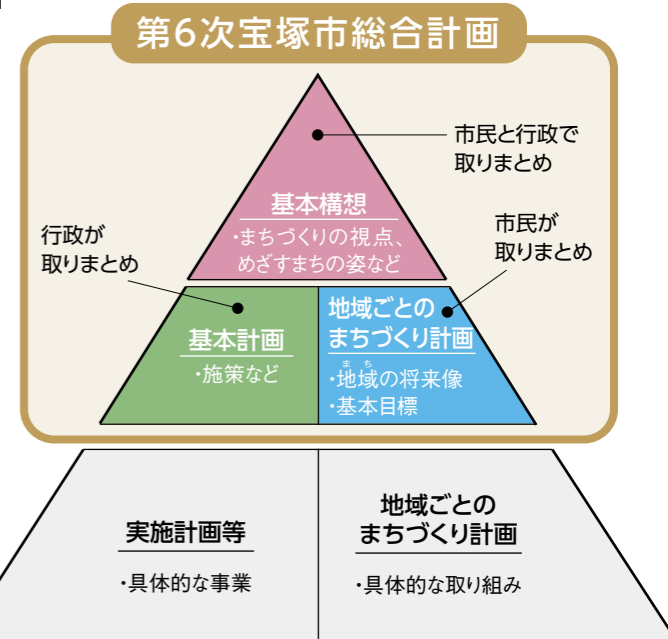
総合計画は、総合的かつ計画的にまちづくりを推進するための計画であり、市民と行政によるまちづくりの方向性を示すものです。

「基本構想」「基本計画」「地域ごとのまちづくり計画」で構成され、各計画の計画期間は、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間です。

※ただし、「基本計画」については、社会情勢の変化などに応じて内容の見直しを行います。

ここがポイント

地域課題や市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりを更に進めるため、市内に20あるまちづくり協議会で策定した「地域ごとのまちづくり計画」を新たに総合計画に位置付けました。



第6次宝塚市総合計画は
下記二次元コードから
ご覧ください。



詳しくはこちら

令和3(2021)年			令和2(2020)年		平成31・令和元(2019)年			平成30(2018)年		
7月	4月	2月	3月	1月	9月	7月	2月	11月	6月	3月
○市議会にて可決	○計画(案)審議会答申	○パブリック・コメント	○地域ごとのまちづくり計画見直し完了	○基本構想(案)審議会中間答申	○調査特別委員会(市議会)による調査を開始	○審議会へ諮問・審議を開始	○市民ワークショップをスタート	○市民アンケートの実施	○策定方針決定	○検討懇話会による検討を開始

総合計画ができるまで

第6次宝塚市総合計画の「GUIDE BOOK」

「第6次宝塚市総合計画」を少しでも多くの方に知っていただき、共に宝塚市をより良いまちにしていきたいという思いでガイドブックを作成しています。ガイドブックは9月1日(水)から市役所、各SS・SC、各公民館などで配布するほか市ホームページでも掲載しますのでぜひご覧ください。



INTERVIEW



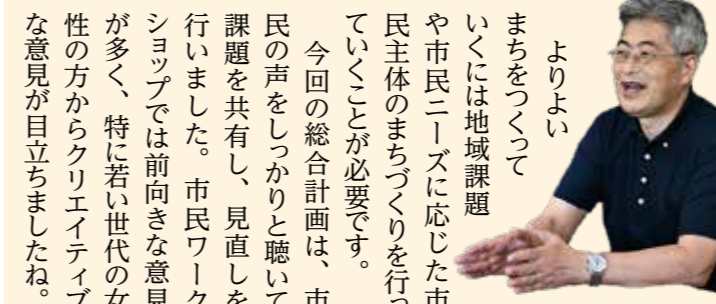
橋之爪 鮎子 さん
市民ワークショップ参加者

小さなことからまちづくりに参加を

ワークショップに参加したことで、いろいろな考えに触れることができ、改めて自分の住んでいる地域の課題や住民の想いを知ることができました。普段、あまり市との関わりが少ない方にとっては、急にまちづくりについて考えることは難しいかもしれませんが、そういう方はまず、何でもいので参加してほしいと思います。アンケートに答える、投票に行くだけでも参加になると思います。今までもあまり考えてこなかった、自分のまちについて考える機会になりますし、いろいろな方とのつながりもできると思います。誰もが住みやすい宝塚市のために、小さなことから自分のできることをしていきたいです。

INTERVIEW

みんなでまちをつくるという意識を



よりよいまちをつくる
久 隆浩 さん
宝塚市総合計画審議会会長
近畿大学総合社会学部環境・まちづくり系専攻 教授

スローガンの「わたしの舞台はたからづか」という言葉にもあるように、これからはまちづくりの主体として市民自らがこのまちをどう動かしていくか、市民自治をどのように実現していくかが重要になります。新型コロナによる大きな変化を自分ごとと考え、よりよいまちを一緒に作りあげていきましょう。

市民ワークショップの開催

このまちをもっと良くしたいと思う10代から80代までの幅広い世代の方が集まり、宝塚市のめざすまちの姿などについて、それぞれ想いを出し合いました。また、市民ワークショップで出た意見は提言書として提出していただきました。

第6次宝塚市総合計画のスローガン「わたしの舞台は たからづか」というフレーズは、市民ワークショップから生まれたものです。



市民ワークショップ「タカラミライラボ」